

阪神淡路大震災の生の声を聴く

初めて聞く31年前の街の様子

5月8日（金）、2年生が地元住民から阪神淡路大震災の当時の様子について聞いた。

2年生の選択授業「防災と心のケア」の一環として行われたもので、授業の選択者19人が地元で自営業を営む方々から、当時消防団員として倒壊した家屋から被災者を救出した際のことや、震災の前後で変わった街並み、当時の淡路高校（淡路農業高校）の様子などについて話を聞いた。

話を聞いた生徒からは「近所どうしが仲良かったから連携して助け合うことができたと聞いて、近所付き合いが大切だと思った」といった感想が聞かれた。

